

主 題：主が父に求められること**聖書箇所：テトスへの手紙 2章2節、2章6－8節**

今日のテキストはテトスへの手紙2章です。ちょうど一ヶ月前、母の日に私たちは同じようにこのテトスへの手紙2章のみことばを学びました。そのときは、主が母に求めておられることを見たのですが、今日は主が父に求めておられることをごいっしょに学んでまいります。確かに、男性たちに対する教えです。みことばを見ていきますが、まず、教会にいる年輩の男性たちに対する教えがあります。次に若い男性たちに対する教えがあります。そして、最後に、このテトス自身に対する教えがあります。女性の皆さんは今日はお休みになっていてもいいというわけではありません。ここに記されている内容は、年齢も男女も関係ありません。大切な真理があります。私たちが信仰者としてどのように歩んでいくべきなのか、そのことを教えてくれています。

A. 年輩の男性 2節

まず、2：2をご覧ください。年輩の男性たちに対する主のメッセージが記されています。「老人たちには、自制し、謹厳で、慎み深くし、信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように。」と、パウロはテトスにこのように教会にいる老人たちに教えなさいと言います。「老人たち」と聞くと、私たちはある年齢のグループを想像しますが、年齢は記されていません。ただ、一般的には「老人」に該当する人たちとは、子育てを終えて、子どもたちはもう巣立って行ってしまったという年齢を指すと言います。だから、年齢の幅が広いのです。その男性たちに対してパウロは四つのことを教えるようにとテトスに、また、教会の人たちに命じています。

1. 自制：正しい判断力

「自制」する者でありなさいと教えるようにと言います。「自制」ということばは新約聖書に3回しか出て来ません。この箇所以外では日本語では「自分を制する」と訳されています。特に、何に関して制するのか？この箇所の前後を見ると、明らかにお酒に関することです。というのは、このことばには「飲酒を慎む、節酒する」という意味が含まれています。そして、よく見ると、3節には「年をとった婦人たちに」に対する教えの中で、「大酒のとりこにならず、」とあり、1：7には監督は家の管理者としてどのような人でなければならないか？と記されている中に「酒飲みでなく、」とあります。ですから、お酒に関することをパウロは対比しながら教えていることが分かりますが、それ以上に、常に頭がクリアで、何が大切なのか、何が永遠に価値あることなのか、そのようなことを明確に判断できる者として成長しなさいと言うのです。アルコールによって判断できないようなことにならないで、しっかりと判断できる人でありなさいと、そのような勧めをまず最初に与えます。

2. 謹厳：尊敬を得る

このことばも面白い意味をもっています。ギリシャ語では「性格や行為が尊厳な、尊ぶべき」という意味があります。恐らく、パウロはここでこの教会の人たちに対して、年をとった皆さんは教会外の人たちから尊敬を得る人でありなさいと言っているのでしょう。特に、そのための三つの分野を見ます。一つは「態度」であり、もう一つは「ことば」、そして、「信仰」です。

1) 態度**(1) 信仰の大人として生きていく**

この「謹厳」ということばには先に挙げた意味とともに、「信仰の大人として生きていく」ということを表わす意味があります。これは、軽率で不真面目な行動、愚かで子どもじみた行動を取らないという意味です。パウロがここで「謹厳であるように命じなさい」と言ったのは、当然、彼らは信仰において大人であるべきで、一なぜなら、彼らは信仰歴が長いからです—いつまで経っても子どもじみた幼稚な信仰者であってはいけない、彼らの行ないはまさに信仰者として大人でなければいけないと言うのです。

(2) 正しく生きている

同時に、彼らは神の前に正しい行ないをしている者たちです。なぜなら、信仰が成長している人は、何が神の前に正しくて、何が間違っているのか、何が罪なのか、何が神を喜ばせ、何が神を悲しませるのかを判断できる人たちです。

(3) 兄弟姉妹たちの徳を高めるためにすべてのことを行なっている

パウロはIコリント10：23、24でこのように言っています。「すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはかぎりません。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが徳

を高めるとはかぎりません。:24 だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利益を心がけなさい。」と。ですから、信仰的に大人の人たちは、人々の信仰が成長するために尽くす者たちです。自分のことよりも、人々の信仰の成長のために労しているのです。パウロは「教会の年輩の人たちにこのことを教えなさい」と言うのです。

2) ことば

パウロは「態度」だけでなく「ことば」においても気をつけなさいと言います。教会の霊的な人たちに対して、ことばにおいて罪を犯さないようにとみことばは警告します。

(1) 悪いことばを出さない

エペソ 4 : 29 に「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。」とあります。神が喜ばれないことを口にするなど言うのです。私たちはすぐに人の悪口を言ったり、人の欠点を口にしますが、神はそれを喜ばれないし、そのようなことによって信仰の成長を見ることはできません。何度も見ているように、私たちはそのようなことから離れなければいけません。離れることはできます。信仰が成長することによって、そのようなことから離れるからです。ですから、人の悪口を口にするというのは信仰において幼稚なのです。先ほどのエペソ 4 : 29 はこのように続きます。「ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」と。全然違う生き方です。悪口を言う生き方か、それとも、聞いている人たちが会話を通して主を見上げて、神に喜ばれることを選択していこうとする、彼らの信仰が成長していく、そのようなことばを話す人になりなさいと。そのような人たちが教会には必要です。そのような人たちが教会に溢れているなら、敢えて言うなら、パウロが言うように、そのような年輩の人がたくさんいる教会は祝された教会です。もちろん、これは若い人たちにも共通して言えることです。でも、少なくとも、信仰歴が長い人たち、信仰者として長い年数を歩んでいる人たちは、そういう面で信仰の大人であることを示すべきです。

もう一箇所、I ペテロ 3 : 10 - 13 をご覧ください。詩篇のみことばを引用してペテロはこのように言っています。「:10 いのちを愛し、幸いな日々を過ごしたいと思う者は、舌を押さえて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、:11 悪から遠ざかって善を行い、平和を求めてこれを追い求めよ。」、みことばはこのように教えてくれています。どうすれば神の祝福をいただけるのか？「:12 主の目は義人の上に注がれ、主の耳は彼らの祈りに傾けられる。しかし主の顔は、悪を行う者に立ち向かう。:13 もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。」と、どうぞ、信仰者の皆さん、男性女性に関係なく、年齢に関係なく、そのような人になりたいと決心して神に助けをいただくことです。私たちはまず、悪いことばをいっさい口から出さないでおこうと決心することが必要です。

(2) 徳を高める

同時に、私たちは人々の信仰が成長するために口を開きたいと決心します。パウロはテサロニケの教会の人たちにイエスの再臨のことを話したときに、このように言っています。I テサロニケ 5 : 11 「ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。」と。大変な迫害の中であって、クリスチャンたちは励まし合いながら、主イエス・キリストにお会いする日が近づいているのだから、一生懸命その日に備えて主の前を忠実に歩み続けていこうと、そのようにして彼らは励まし合っていた、徳を高め合っていたのです。

(3) 信仰

もう一つ挙げるなら「信仰」です。教会にあって年輩の人たちが態度においてもことばにおいても、人々から尊敬されるような人であるから、その人は間違いなく、信仰においても人々の尊敬を得るような人です。ある一人の人物について、パウロは彼を尊敬するようと言っています。その人物は「エパフロデト」です。この人のことはピリピ書 2 章に書かれています。2 : 29 - 30 「:29 ですから、喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。」、ピリピの教会に宛ててパウロは、このエパフロデトのような人に尊敬を払いなさい、また、彼と同じように歩んでいる者たちにも尊敬を払いなさいと言います。なぜか？その理由も記しています。「:30 なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。」と。エパフロデトはいのちがけだったのです。

今、私たちが賛美した通りです（聖歌 5 1 1）。私たちは主に従っていこう、主に喜んでいただきたいと願います。その結果、いのちの危険を身に招くことがあったとしても、それによっていのちを落とすことがあったとしても、信仰の勇者たちはなお主に従い続けた、だから、尊敬に値すると言うのです。パウロは教会の年輩の男性たちが益々そのような歩みをするように勧めなさいと、テトスに教えるのです。このように人々から尊敬を博するような人たちは間違いなく教会に必要です。もっと言えば、そのような人たちは間違いなく家庭に必要です。私たち男性を、父親を家族の者たちが尊敬するかどうか？

その言動を見て、その信仰を見て、彼らが尊敬を払うかどうか？私たちは考えてみなければいけません。でも、確実にみことばが教えることは、それこそ神が私たちに望んでおられることだということです。

3. 慎み深く : 分別のある

三つ目に、年輩の人たちへの教えを見ると「慎み深くしなさい」とあります。「慎み深く」ということばは二つのことばが一つに合成されています。「健全な」と「心」です。ですから、「慎み深く」とは「健全な心」を意味しているのです。その人の心は分別があり賢明で知恵があります。何が神の前に正しいのか、何が神の前に喜ばれるのか、その判断ができる人です。だから、その人の心は健全、健康なのです。また、この人は非常に穏健です。感情的ではないのです。感情的な人は、何が神の前に喜ばれるのかを判断できないからです。なぜなら、いつも感情に支配されてしまっているからです。霊的な人は神の霊がその心を支配するゆえに、私たちはその知恵をもって正しい選択をすることができるのです。だから、霊的なのです。

ですから、パウロが教会にいる信仰歴の長い人たちに対して、益々慎み深くありなさい、しっかり分別を働かせながら神に喜ばれることをいつも選択するように、そのために、感情的ではなく、神が与えてくれる知恵をもって正しいことを判断していくようにと、そのことを勧めるのです。皆さん、この教えは男性に対してだけではありません。なぜなら、ここで言われている「慎み深く」は形容詞として使われていますが、5節には若い婦人たちに対して「慎み深く、」あるように教えなさいとありました。また、6節には「同じように、若い人々には、思慮深くあるように勧めなさい。」とありますが、この「思慮深く」も同じギリシャ語です。ただ、2節と5節は形容詞形ですが、6節は動詞形です。言わんとしていることは同じです。クリスチャンとしてふさわしいこのような特徴は、クリスチャンすべてがもつことが必要だということです。年輩の男性であっても、年輩の女性であっても、若い男性であっても、若い女性であっても…。

4. 信仰、愛、忍耐において健全であるように : 健康

「健全」とは「健康」という意味をもったことばが使われています。しかも、この「信仰、愛、忍耐」という三つのことばはすべて名詞ですが、それぞれの前にパウロは定冠詞を付けています。それには意味があります。パウロが言いたいことは、読者ひとり一人の個人的な信仰であり、個人的な愛であり、個人的な忍耐を意味しているということです。つまり、パウロは「あなたの信仰、あなたの愛、あなたの忍耐」だと言うのです。それらが健康であるように、それらが神の前に健やかに育っているような、そのような状態であるようにと言うのです。

信仰とは、神のみことばに対する揺るがない信頼のことです。どんなときでも神のみことばに信頼しよう、神がそのように言われたなら必ずそうなるから信頼しよう。そのような年輩の方々や若い人たちがこの教会に溢れていたならどんなにすばらしいことでしょう。そのような人たちはこの教会にたくさんおられました。様々な集会でその人たちは常に言いました。「主を信頼しよう、主のことばを信じよう。」と。そのような信仰は若い信仰者を励まします。愛においてもそうです。神に対する愛だけでなく、人々に対する愛において健康的だと言います。神を愛する愛は神の命令に従うことです。ですから、この人はいつも神に従って行こうとするし、失敗すればそれを悔い改めてまた従って行こうとする、そのように主が教えてくださっているように生きようとし、周りの人たちに対して、相手がクリスチャンならその人の信仰の成長のために喜んで自分を犠牲にして仕えて行こうとし、相手がまだイエスのことを知らなければ、このすばらしい救いを伝えようとし、そのように生きているのです。自分よりも周りの人たちのために生きているのです。なぜなら、そのような愛によって私たちは愛されたからです。忍耐は、何が起ころうとも主への希望を失わない人です。必ず、主のみこころが為されることを信じて、それを求めながら日々を歩んでいます。必ず、主は最善を為してくださいという確信を忍耐をもって持ち続けています。

なぜ、このようなことを教会の年輩の人たちに教えているのでしょうか？というのは、往々にして、多くの人たちは老年を迎えることによって希望を失うからです。これまでの人生を振り返るときにいろいろなことに後悔を覚えてしまう、もっとああすればよかった、もっとこのように生きればよかったと、そして、落ち込んでしまうことがあるからです。また、若いときのように奉仕ができていない自分を見て、自分を責めたり、自分には能力がないと卑下したり…。つまり、年を重ねるごとに失望や絶望を感じている年輩のクリスチャンが多いからです。だからこそ、パウロはテトスを通して彼らに言うのです。「年輩の皆さん、最後までしっかりと信仰のレースを走り切りなさい。長年に渡って教えられて来た主の真実さ、数々の恵みを思い出して、その主の偉大さを人々に伝えるという責任が残っていることを覚えなさい。まだ、伝えなければならないことがたくさんあるのです。あなたのその長い信仰生活を通して、神がどんなに忠実な方でありどんなに真実な方であり、どのようにあなたの必要に答えてくださったのか、どのようなレッスンをあなたが学んで来たのか、その信仰の財産を次の世代に伝えていか

なければいけない。」と。

かつて、私たちはそのようにしていたのです。戦前、戦中という私たちが経験したことの無い時代を、信仰者として生きた人たちの証を聞きました。それが励ましになりました。まだまだ皆さんは、神のすばらしさを伝えるという役目が残っているのです。主に信頼を置き、主のみこころを行なうことがどれ程すばらしいことなのか、そのことを後に続いて来る者たちに教えていく、その務め、その責任があるということ覚えなければいけないのです。失望しておれない、落ち込んでおれないのです、皆さん。確かに、働きおいては制限されているかもしれませんが、しかし、皆さんの信仰はその歳に関係なく成長しているはずです。「どうぞ、希望をもってください。主があなたを使ってくださいをしっかりと覚えてください。」と、あたかも、パウロがそのようなメッセージを私たちに与えているようです。特に、教会の中で、年を重ねた皆さんに対して…。Ⅰペテロ3：9に「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだからです。」と書かれている通りです。

さて、このようなメッセージを年輩の人たちに与えたパウロ、今度は若い男性に対するメッセージが6節に記されています。

B. 若い男性 6節

1. 「若者」とは？

6節「同じように、若い人々には、思慮深くあるように勧めなさい。」。「若い人々」とは何歳くらいの人でしょうか？マッカーサー先生は「恐らく、この年齢は結婚できる年齢から60歳くらいまでであろう。」と言います。非常に幅があります。そして、ここに彼らに対する勧めが記されています。

2. 彼らへの勧め

命令形で記されています。

1) 思慮深くありなさい

「思慮深く」とは、先ほど2節で「慎み深く」と見たときに説明しましたが、この「思慮深く」ということばには「情欲を抑える、節度を保つ」という意味もあります。特に、6節ではこの意味をもってこのことばが使われていると辞書は説明しています。

(1) 情欲に対して

ですから、特に、若い男性たちに対してパウロがテトスを通して教えること、また、命じることは、情欲にあなたを支配させてはいけないということです。パウロはテモテに対してもそのことを教えています。Ⅱテモテ2：22「それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。」と。大変な戦いであることはみな知っています。しかし、感謝なことに、神は私たちを助けてくださり、そのようなことに心を奪われてはならない、そのような汚れたものに私たちの心を支配させてはいけないと言うのです。そうではなく、神ご自身に支配されるように教えなさいとパウロはテトスに勧めるのです。不純な性的要求に対して清くありなさいと言います。この世の中はそのように言いません。好きに生きたいと言います。でも、あなたを造った神はそのようには教えていません。清くありなさい、正しくありなさいと教え、そのように若い人たちに教えなさいと言われます。

(2) プライドに対して

もう一つ、みことばはこのようなことを若い人たちに教えるようにと教えています。これはペテロのことばですが、Ⅰペテロ5：5に「同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。」とあります。ですから、私たちは確かに、若い人たちにそのような情欲に支配されることがないように、支配されて罪に至ることがないようにと警告を与えますが、同時に、「謙遜でありなさい」と教えるのです。プライドという罪に対して同じように気を付けていなさいと。神はプライドのある人間をお用いにならないからです。

神がお用いになるのは、謙虚な謙遜な人です。主イエスがそのような模範を示してくださいました。ピリピ人への手紙2：6-8で「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、7ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、8自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」と教える通りです。

2) 思慮深くあるための方法

ガラテヤ5：16に「私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」とあります。神によって自分自身の心が支配されるようにしなさいと言います。

C. テトスに対して 7-8節

さて、7節からはテトス自身に対する教えがあります。「また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教えにおいては純正で、威厳を保ち、8非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。」

ここにも同じように四つのことが教えられています。「自分自身が良いわざの模範となり」、「教えにおいては純正で」、「威厳を保ち」、「非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。」と。もし、あなたがそのように歩むなら、結果として、8b節「そうすれば、敵対する者も、私たちについて、何も悪いことが言えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。」、良い証がなされていくということです。テトスに対してパウロが命じたこの四つのことを見ていきましょう。これも私たち信仰者にとって大切な教えです。

1. 模範

テトスに対してパウロは、あなた自身が良いことにおいて人々の模範になりなさいと言います。

1) リーダーたちへの責任

霊的なリーダーとして働くなら、また、働きを継続するなら、人々の模範になることが必要だということです。パウロは同じことをテモテに対しても言っています。Iテモテ4：12「年が若いからといって、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。」と。「テモテよ、そのように正しく生きなさい」と言い、そして、テトスに対しても同じことを言うのです。あなた自身が模範になりなさいと。

2) すべての男性たちへの責任

これはリーダーたちに課せられた責任ではありません。すべての信仰者である男性たちに対する責任でもあります。なぜなら、主イエスによって救われたひとり一人は、信仰が成長し、教会において監督、つまり、長老として働きを為すような、霊的に成長した者となることを願うことは健全なことだからです。パウロはIテモテ3：1でそのことを教えています。「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである」ということばは真実です。」、神はそのことを喜んでおられるのです。神によって救われた人が、信仰において成長することを神がお喜びになることは当然です。その人を新しく生まれ変わらせてくださっただけでなく、その人のうちに成長したいという願いをくださり、そして、成長するために何が必要かを教えてくださり、そのように実践していくときに信仰は成長するのです。そして、願わくは、私は家庭だけでなく教会にあって神の大切な役割を為していきたいと願うことは当然のことです。ですから、男性の皆さんは教会にあって長老制教会の霊的組織にあって、霊的だと認められた人として、主に仕えていくことを願うことは当たり前のことです。でも、そのためには、あなたが信仰者として模範を示していなければいけないということです。なぜなら、信仰的に模範を示していない人をどうして教会の中で執事に推薦されますか？執事として立派な働きをした人が、長老として推薦されていくのです。日々の信仰の歩みをもって、人々の前に模範を示していくのです。ですから、当然、すべての男性たちにこの責任は与えられています。

3) すべてのクリスチャンたちへの責任

また、同時に、最初に言ったように、これは男性だけのことではありません。すべてのクリスチャンに神が望んでおられることは、みな成長することです。ですから、このテトスの2章には3節に年輩の女性たちへの教えが書かれています。彼らの信仰が成長し、彼らが若い人たちを教えていけるように、若い人たちもそれによって成長していくようにと。神が私たちに何を期待しておられるのか？そのことが分かります。主によって救われた人たちはそこに立ち止まるのではありません。少しでも信仰が成長するために、前に向かって進んでいくのです。私たちは何のために信仰の成長を願うのでしょうか？私たちが成長するなら、私たちを通して神の栄光が現わされていくからです。人から誉められるためではありません。神の栄光が現わされるために私たちは成長していくことが必要なのです。そのために救われ、そのために生かされているのです。

4) 教会の責任

もう一つ、教会自体の責任でもあります。先にも触れたように、何のために主は私たちを救ってくださったのか？何のために主は私たちをこの世に置いてくださっているのか？ということを考えてときに、次の結論を引き出すことができます。私たちはこの私たちの神がいかに偉大な真の神であるかを世に知らせていく、この方以外には救いはないことを人々に明らかにしていくのです。この方によって私たちは生まれ変わるということを明らかにしていくのです。そのことをどのようにして証明していきますか？私たちを生まれ変わらせてくださったこと、私をこのように変えてくださったこと、そのことをもって私たちは世にこの主の偉大さを明らかにしていくのです。

しかも、同時に、私たち信仰者は主にお会いする日が近いことを知っているからです。何度も見て来ているように、今日が地上における最後の日かもしれないということ、それをもって私たちは生きるはずですが、もし、私たちひとり一人がそのように歩むなら、間違いなく、私たちの教会は周りの人々に大きな模範を示します。テサロニケの教会がギリシャ地方においてすばらしい模範を示していたことが、Iテサロニケ1：6、7に記されています。「あなたがたも、多くの苦難の中で、聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になりました。：7 こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤと

のすべての信者の模範になったのです。」と。そのような責任が私たちにはあるのです。そのためには、私たちひとり一人が模範を示していることが必要です。ピリピ3：17のみことばをご覧ください。「兄弟たち。私を見なう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。」と。なぜ、彼らに目を留めるのか？彼らの生き方をまねるためです。彼らがどのように生きているのかを見て、その行ないに倣って生きるためです。

皆さん、教会というところ、また、クリスチャンは周りの人々から見られています。もしかすると、私たちはこの世に対して失望を与えているかもしれません。主を知らない人がやって来たとき、当然、私たちは彼に主を知ってもらいたいと思っていますが、彼らはこのように言うかもしれません。「世の中の人たちの方が寛大だ。」と。世の人の方が愛を実践しているとか、世の人の方が赦し合っているとか、世の人の方がマナーがあると…。恵みによって救われた私たちが覚えなければいけないことは、確かに、神のこの救いは神の一方的な恵みでしたが、問題は、私たちの生き方が本当に世の人から見て尊敬に値するものかどうかです。よく「恵みぼけ」ということばを使います。悪い意味においてです。教会は何でも許される、何をしても構わないかのような…。無責任な歩みに関して私たちは注意しなければなりません。もちろん、みことばはみこころから外れるときに、そのような兄弟姉妹たちを戒めることを教えています。つまり、私たちひとり一人は神に対して、人々に対して責任を負っているということです。私たちは模範を示していくのです。主によって救われた者たちはどのような者であり、どのように生きることによって、私たちが神を愛していること、神を畏れていることを世に証していくのか？

* 信仰者として良き模範を示すこと

(1) 良き模範 : 主の命令を実践する

良き模範というのは主の命令を実践する人です。マタイ5：16でイエスはこのように言われています。「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」と。良い行ないによって、人々は「この人たちが信じている神様はすごい！彼らをこのように生まれ変わらせて、変えてくださったから！」と言います。そして、そのような生き方をすることができる者へと私たちは生まれ変わったのです。パウロは「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」(エペソ2：10)と記しています。私たちは私たちの良い行ないによって救われたのではありません。救われることによって良い行ないをする者へと変わったのです。

(2) 悪い模範 : 主の命令を実践しない

語ってはいても実践しないのです。パウロはこのように言います。Iコリント9：27「私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。」、つまり、口で言っても実践していない、そのようなことのないためにと申すのです。私たちの弱いところはそこかもしれません。家庭にあって子どもたちはそのことを見ています。「お父さんはそう言うけど実践していない。」と。私たちはどのようにして模範を残しますか？

テモテに対する教えを続けて見ていきます。

2. 教えにおいて純正であるように

パウロは二つのことを言います。

1) 正しい教え

教える内容が正しいものであるようにと言います。テトス1：9に「教えにかなった信頼すべきみことばを、しっかりと守っていなければなりません。それは健全な教えをもって励ましたり、反対する人たちを正したりすることができるためです。」とあります。また、2：1にも「しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを話さなさい。」とある通りです。

2) 正しい動機

正しい動機によって教えなさいと言います。マタイ6：1に「人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。」とイエスのことばが記されています。その当時、多くの人々は人から見られることを願って、人に見せるために善行を行っていました。主はそのことを戒めておられます。正しい動機をもって教えている人は主に対して真剣に生きているのです。何が大切で、主は何をお喜びになるのかを知って、そのことを実践しているのです。パウロは「テトス、そのように生き続けていきなさい。模範になりなさい。模範として歩み続けなさい。あなたが教えることは、メッセージの内容においても、動機においても正しくありなさい。そして、道徳的に清くありなさい。」と言います。

3. 非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい

あなたはことばにおいて正しくなければならぬと言うのです。

1) 健全なことば

「健全な」ということばは「病気が治る、良くなる、健やかにする」という意味をもっています。ですから、「健全なことば」とは、会話を通して人々の心を癒すようなことばです。会話を通してその人を励ます、会話をもってその人の信仰を高めていくような、そのようなことばを話し続けていきなさいと言うのです。先に「悪いことばを口にしない」と見ましたが、ここでも繰り返すのです。

2) 非難すべきところのない

正しいことを語り続けているからです。

こういうことを実践する人は霊的な人です。パウロは、教会の年輩の人たちに対して、若い人たちに対して、そして、リーダーであるテトスに対して、霊的であり続けていきなさい、信仰においてしっかり成長していきなさいと命じます。特に、男性の皆さん、今日は父の日です。あなたは大きな責任を負っています。家庭において、信仰者として後に続いて来る者たちにしっかり模範を示しているかどうかです。そして、もしそうなら、教会においても社会においてもそのような者としてしっかりとキリストをあかし続けていくことです。そのような男性として、主が喜んでくださる男性として成長しなさいと。どうぞ、その決心をもって今日それぞれの家にお帰りください。なぜなら、私たちに必要なことはそのように生きていきたいとする決心だからです。そして、それを実践させてくださる神に助けを求めるのです。その決心と祈りをもって、主の栄光を現わし続けてください。主が望んでおられる男性、主が喜ばれる男性、そんな人として今日から新しい歩みを始めてくださることを心からお勧めします。

《考えましょう》

1. 老人たちに与えられた責任は何だとテトスは教えますか？
2. それらの責任を果たすことがどうして大切なのでしょうか？
3. 「良いわざの模範となる」という責任は、ある特定に人たちだけに与えられたものでしょうか？
もし、そうでないとしたら、その責任を果たすことがどうして大切なのか、その理由を挙げてください。
4. あなたの為さった決心を兄弟たちと分かち合い、その実現に向けて祈り合ってください。